

平城宮跡歴史公園南側地区の整備に関する検討委員会（第2回）

議事概要

日 時：令和4年3月17日（木） 10：00～11：30

場 所：奈良県文化会館 集会室A・B

出席者：篠藤 敦子氏、下村 由加里氏、田辺 征夫氏、仲西 範嘉氏、
中村 孝氏、福井 義尚氏、宮城 俊作氏、向山 敦夫氏、森田 秀雄氏

検討委員会（第2回）は、未成熟な情報を公にすることにより、県民等の誤解や憶測を招くおそれがあるため、および新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、非公開で開催。

議事（1）これまでの検討委員会の振り返りについて

議事（2）平城宮跡南側地区の整備計画（案）について

委員からの主な発言は以下のとおり。

- ・地域の人にとって、計画地がどうあるべきかを考えるべき。史跡は守りつつ、それ以外において新しい取り組みを行い、活性化していくことが重要。
- ・国営公園と県営公園の役割分担を行い、公園全体を活性化していくことが重要。計画地においては、制約が比較的少ない利点を活かし、「公園」らしい整備を行っていただきたい。
- ・計画地については、地域の方々と触れ合える場所になればよい。世界遺産を巡ることが奈良観光の目的の一つであるが、地域の方々と触れ合いも観光の目的となる。
- ・計画地周辺は第1種住居地域であり、高度地区15mとなっている。特に西側の大規模商業施設とその周辺の将来的な開発等も想定し、検討していくべき。
- ・オープンスペースを確保し、景観を活かすといったコンセプトは良い。特に便益施設からの眺望の良さは、民間活力導入の際の付加価値となりえる。
- ・遺構表示の解説は、看板ではなくデジタル表示とすべき。
- ・計画地は、往時の坪の大きさを体感できる貴重な空間。2つ分の坪（右京3条1坊3坪、右京3条1坊4坪）を体感できる空間とするためには、条坊道路の遺構表示を駐車場にも行うべき。
- ・大宮通りからのアクセスをなくし、公園そのものの快適性を優先する考えは理解できる。
- ・ドライブスルーは、渋滞の原因となるなど、公園としては設置しない方が良い。
- ・駐車場は、一般的な商業施設と同じような設えにせず、駐車台数を減らしてでも緑化に努め「公園」らしい整備をすべき。
- ・展望デッキを整備する場合、客席のような使い方もできるため、デッキ前面を大道芸等ができるステージとすれば、より生きてくる。
- ・遊具については景観に配慮しつつ、子供たちが多く集まるものとしていただきたい。
- ・計画地においては、発信ツールとして様々なイベントを効果的に実施していただきたい。
- ・イベント開催等に向け、上下水道・電気設備等のインフラ、情報発信のWi-Fiを整備すること

が重要。

- ・イベントを開催し、盛り上げたいというのは地域住民の総意である。ただし、騒音対策は必要。
- ・将来の維持管理費用についても考えておくべき。広い芝生広場を適切に管理するためには、費用がかかる。また、木を使った施設については、更新の頻度等を考え計画すべき。
- ・地域のニーズを把握するため、ワークショップを実施しているが、今後も引き続き地域の声を聞く場を持っていただきたい。
- ・将来的に計画地を史跡に指定するようなことを現段階では考えず、埋蔵文化財の保護を徹底したうえで、公園の計画は文化財とは切り離してすすめるべき。